



大分大学工学部 同窓会機関誌 翔工 第26号

大分大学工学部同窓会「翔工会」
〒870-1192 大分市旦野原700 大分大学工学部内
電話097-554-7804, 097-554-7823
平成28年3月17日発行

機関誌「翔工」第26号の発行にあたって

同窓会長 松尾孝美



機関誌「翔工」第26号をお届けいたします。同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。また、平素より工学部同窓会の活動に対しましてご支援とご協力に心より厚くお礼申し上げます。

昨年より、同窓会機関誌を翔工会ホームページにて公開し、会員の皆様には機関誌を発行したことをお知らせするはがきを郵送いたしました。同窓生の皆様には、この件にご理解をいただき、ありがとうございます。

翔工会HP： <http://shokou.csis.oita-u.ac.jp/>

同窓会の新たな出来事としては、昨年4月1日に「大分大学同窓会連合会」が設立されたことがあげられます。豊友会(教育福祉科学部同窓会)、四極会(経済学部同窓会)、玉樹会(医学部医学科同窓会)、桜樹会(医学部看護学科同窓会)、九峰会(福祉社会科学部同窓会) および翔工会の各同窓会が会員となり、大分大学全体の同窓生の交流・親睦を図るとともに、大分大学の発展に寄与することを目的としています。詳しくは、以下のURLの同窓会連合会ホームページをご覧ください。

同窓会連合会HP：

<http://www.alumni.oita-u.ac.jp/index.html>

平成24年度から、全国の国立大学法人では、文部科学省主導のもとで、「大学改革実行プラン」が進行しています。大分大学では、一昨年11月に新学部の設置構想を発表し、平成28年度より福祉健康科学部が新設、教育福祉科学部が教育学部に改組されます。工学部内でも一昨年からの改組計画が議論され、大詰めを迎えております。今回の機関誌では、学部長である豊田昌宏先生から、最近の工学部の様子や取り組み、および同窓生へのメッセージのご寄稿をいただきました。また、昨年10月から理事・副学長に就任された越智義道先生に、全学の状況についてご寄稿いただきました。次回の機関誌では、工学部の新たな姿をお披露目することができるものと思いますので、ご期待ください。

今年度は、4名の教職員の方々が退職されます。応用化学科の倉内芳秋先生、福祉環境工学科建築コースの井上正文先生です。また、電気電子工学科電気コースの池田直美教務職員と機械・エネルギーシステム工学科エネルギーコースの木庭博美技術職員も退職されます。今回の機関誌では、退職される倉内芳秋先生と井上正文先生からこれまでの思い出のご寄稿をいただきました。多くの同窓生が大変お

世話になった先生方です。これまでのご恩に厚くお礼申し上げます。

工学部では、産業界の様々な分野で広い視野と専門性を備えたイノベーション博士人材の養成に取り組み、社会人博士課程学生の受け入れを積極的に行っております。同窓会員の皆様方におかれましても、博士課程へ進学をご希望

される方がおられましたら、ぜひご相談くださいますようお願いいたします。

末筆ではございますが、工学部同窓会の活動に、かわらぬご理解とご協力をお願いいたしますとともに、同窓生の皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

「平成27年の大分大学工学部」

工学部長（応用化学科）教授 豊田昌宏



工学部同窓会「翔工会」会員の皆様には、益々のご活躍のことと存じます。「翔工会」の皆様は、工学部の現在の活動状況をどの様に入手されますでしょうか。OB会での恩師との

意見交換、近況報告からでしょうか。工学部の現状をホームページ（HP）を通してご覧いただくことは、年に何度ほどございますでしょうか。今年度の工学部は、例年にも増して、教員、あるいは学生の国内外の学会での受賞、論文賞、講演賞等の表彰、あるいは成果が数多く報告されております。是非一度、工学部・工学研究科のホームページをご確認ください。大分大学のHPに入って戴いて、パナーの「学部・大学院・施設」のところから「工学部・工学研究科」に入って戴き、そこで「新着情報」を見て戴くか、

「<http://www2.cc.oita-u.ac.jp/eng/newslist.html>」のアドレスに直接入って戴くことで、ご確認戴けます。お忙しいとは思いますが、工学部、あるいはご出身研究室の現在の様子、先生方の活動状況、あるいは後輩の頑張りを確認戴ければ幸いです。

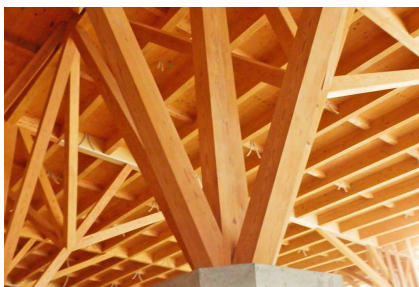
この他に学内では、福利厚生施設（学生食堂）の建替が進んでおります。生協食堂の狭隘等の問題から現在の福利厚生施設（学生食堂）の横、第三体育館側に建設が進められております。この建物は、工学部・福祉環境工学科・建築コースの井上正文教授、田中圭助教の監修の下、「公共建築物等の整備の用に供する地域材の適切な供給の確保に関する基本的事項」等を定めた「大分県公共建築物等における地域材の利用の促進に関する基本方針」より、大分県内の森林から産出された原木を製材した木材、もしくは県

内の加工業者等から供給された国産材を使用して建築が進められております。木材は、ご存知のように、断熱性、調湿性等に優れ、製造時のエネルギー消費が小さく、長期間にわたって炭素を貯蔵でき、さらに、再生可能な資源で、エネルギー源として燃やしても大気中の二酸化炭素の濃度に影響が少ない「カーボンニュートラル」な特性を有する資材であります。従って、環境に配慮した新しい施設が建設されることになります。学内で大型の木造建築は初めてで、現在の進捗状況は、70%程度（写真1、2及び3を参照；1及び2は、内部の構造、3は工事中の外観）です。新年度に入って、入学式の翌日、4月5日（月曜日）にオープンされます。大学に來られた際には、新しくなっている食堂に是非お立ち寄り戴きますようお願い申し上げます。

私の今回の同窓会誌への寄稿は3度目になります。この2年間、工学部は改組に向けて文科省での意見交換を行って参りました。この意見交換では、工学部からの提案が簡単には認められず、この同窓会誌への報告がなかなかできない状況でした。しかしながら、今年は、学部内の改組WG及び各学科の先生方、さらに事務職員の方々のご尽力で、理工学部への改組の道筋が見えて参りました。最終の設置審議会の判断は、今年の夏頃になるかと思いますが、現在、29年4月理工学部への改組に向けて最終段階に入っております。県内の新聞では、この改組の報道が既になされているところですが、今回の改組は、大分大学に工学部が設立されて以来の大きな改組になります。来年のこの同窓会誌への寄稿では、理工学部の詳細が報告されることになると考えます。その報告を楽しみにして戴きたいと考えます。翔工会の皆様には、今後ご理解、ご協力を戴く必要が出てくることと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。最後に、皆様におかれましては、健康に留意され、ご活躍されますことを申し上げて、筆を置くこととします。



＜図1 工事中の福利厚生施設＞



＜図2 県内の木材を利用した内部構造＞



＜図3 工事中の外観＞

「翔工会会員の皆様へ」

社会連携・国際担当理事・副学長 越智義道



工学部同窓会会員の皆様には各界でご活躍のこととお慶び申し上げます。この度翔工会機関誌への寄稿の機会をいただきましたのでご挨拶申し上げます。昨年10月より、工学部知能情報システム工学部から理事（社会連携・国際担当）・副学長に異動となりました。今のところ工学部の方は兼務となっており、講義もいくつかを担当し、本年度は年度途中の異動ということもあり、ゼミで学生指導も継続して行っております。

学長から昨年夏に理事就任への打診をいただいたのですが、重責に対する不安に加えて、工学部では、理工学部への改組の作業が大詰め段階を迎えており、異動について大変迷いました。工学部長の豊田昌宏先生はじめ幾人かの先生方と相談しましたが、本学の事業推進にあたって、これまでの工学部での経験を踏まえて意見を反映することができれば、工学部教員とはまた違った形で工学部のためにも力になれるのではないかという助言もいただき、就任を決意した次第です。理事としての業務では、これまで工学部の先輩である佐藤誠治先生や田中充先生が理事としてご担当になってきた社会連携と国際にかかわる業務を担当しています。就任後4カ月が過ぎて、力不足を痛切に感じっていますが、微力ながら全力で取り組んでいく覚悟しております。

このところの大分大学では大きな改革が急ピッチで進んできています。大学内での組織的なことでは、今年、からだや心の健康やリハビリといった福祉にかかわる人材育成を行う新しい学部、福祉健康科学部が発足し、教育福祉科学部がより教員育成に特化した学部、教育学部へと改組され、同時に高度専門職業人としての教員育成を目的として教職大学院も設置されます。工学部でも、科学技術の変化と社会のニーズをとらえて、今後の工学の諸分野での新たな技術革新を推進する人材の育成を目的として、大学院の工学研究科の専攻を一本化した、工学専攻がスタートします。また、工学部では学部の改組として、これまでの工学にかかわる教育・研究に加えて、数学や自然科学といった理学的な要素を強化した理工学部への組織の変更を計画し、経済学部も社会でのイノベーションを経済や経営の観点から推進する人材育成のための学科の新設を計画中です。これらの改革も平成29年度からのスタートを目指して、具体的な姿が見えてきている状況です。工学研究科では、さらにこの後、この理工学部への改組に対応した大学院の改組を構想しているところです。

このような状況のもとで、昨年10月に理事に就任してから、いくつかの業務を行って来ました。11月には大分大学の機関別認証評価の実地審査があり、その取りまとめの作業を行ってきました。大学等の高等教育機関は少なくとも7年に一度文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）から教育研究水準の向上を目的として、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関して評価を受けることが法令で定められており、本学では、前回平成21年の受審に引き続き、本年度認証評価の審査を受けることとして、大学評価・学位

授与機構に審査を依頼して評価を受けたところです。最終結果はまだ出ていませんが、実地審査では大分大学での多くの取り組みが高く評価され、全体的にはおおむね良好な審査意見をいただいたところで、なんとか無事に今回の認証評価をクリアできるものと考えているところです。また、時期は前後しますが、大分県下の大学等の高等教育機関と自治体・企業等産業界とが連携して今年6月に申請していた、知(地)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「地域と企業的心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」が採択されたとの通知を、9月末に文部科学省から受けました。大分大学はその基幹大学になっています。理事就任直後から、その事業推進の業務に関わっています。このプロジェクトは、県下の組織・団体が一体となって、大分県への就職率向上と地域活性化を目指す取り組みです。このために、大学では、地域に根ざして地域創生を主導できる人材の育成のために、教育改革を推進していくこととなります。具体的には、本学では教養科目を見直し、参加大学等と連携して地域理解のための科目を強化すると共に、地域の自治体や企業と連携して課題解決のためのフィールドワーク等を取り入れた科目や長期インターンシップ等を全学的に導入していくことを計画しています。したがって、これらの教育改革は前述の組織改革と連動して、これまでにない大きな教育改革となってゆきます。

組織や教育といったソフト面での改革も進んでいますが、一方で大学の施設・設備といったハード面でも、耐震改修などの整備が進み、大学内のほとんどの建物が新しくなりました。特に図書館は平成23年から24年の改修工事を経て、広くなり、先進的な仕組みも取り入れて快適な学習環境に変貌しています。今春には、木の味わいを生かしたモダンな新食堂が大学生協の食堂の隣に完成予定です。これらの改修のおかげで、キャンパスの中がずいぶん明るく感じられるようになりました。卒業生の皆さんが来学されると、その変わりぶりに多くの方が驚かれることでしょう。

同窓会も本年度「大分大学同窓会連合会」が発足し、各学部・研究科の卒業生を母体とした6同窓会の連絡・調整を行い、各同窓会独自の事業に加えて、同窓会連合会としての事業の企画を行なうことができる体制が整いました。本年度のその一つの事業が学園祭と連動した「ホームカミングデー」でしたが、次年度も同様の企画のほか、いくつかの新たな企画を通じて、卒業生と在校生、大学教職員との連携関係をより強いものにしていくことを考えております。先に述べました大学の改革にあたっては、卒業生の皆様からのご支援が不可欠です。実は11月の認証評価に関わる意見の中で、大学として卒業生からの声を聞く機会を、より組織的に考えてはどうかとの指摘もいただいています。さらに、COC+事業推進にあたっては、自治体や企業で活躍されておられる卒業生の皆様からのご支援を切に希望しているところです。今後、「大分大学同窓会連合会」を通じて、あるいは直接翔工会を通じて、ご意見を頂戴したり、本学の事業活動にご支援をお願いしたりする機会が増してくるものと思います。どうぞ、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、今後の翔工会のご発展と会員各位のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、皆様へのご挨拶とさせていただきます。

退職される先生方より

「大分大学での36年を振り返って」

工学部福祉環境工学科/建築コース 教授 井上正文



これまでとこれから

早いもので、昭和54年(1979年)10月に本学工学部に赴任して以来、36年半が経ってしまいました。本年3月には定年退職を迎えます。着任当時は、機械工学科、電気工学科、組織工学科、化学環境工学科、エネルギー工学科、建設工学科の6学科からなる工学部でした

(その後、電子工学科が新設され7学科体制になる)。

私は建設工学科に着任しましたが、当時は工学部内の建物も今とくらべると隣棟間隔も十分にあり、ゆったりとした雰囲気が漂っていました。その後、受験生の増加に伴う臨時増募や大学院修士課程(博士後期課程は平成7年に設置)の新設などにより、現在は当時から比べるとキャンパス内は学生数の増加などでかなり賑やかになった印象です。また、工学部内での活動も着任当時とくらべると、大変喜ばしいことに、留学生数の増加や産学官連携活動などによりずいぶん活発になった印象です。この間、大学院棟や福祉環境工学科棟の新設や既存建物の耐震補強工事の実施が順次実施され、工学部設立当初の建物も見違えるほどにリニューアルされてきています。また、エネルギー棟の東側には学生広場が新設されています。この広場は、翔工会や工学部後援会からの援助のもと、建設されたものです。卒業生の皆さんも久しぶりに工学部キャンパスに来られると、その変化ぶりに驚かれることでしょう。その極めつけは本年3月に竣工予定の生協学生食堂です。多くの卒業生の皆さんは、経済学部裏手の学生会館や大駐車場横の2階建て鉄筋コンクリートの生協建物で食事を取られていたことでしょう。

このたび、これを廃止してすぐ横にこれまでよりひと回り大きい木造大規模建築として新生協学生食堂が建設中です。たぶん竣工後は旦野原キャンパスの、いや大分大学の目玉の建物として注目を集めることでしょう。現在、急ピッチでこれが建設中です。建設中の内部空間は写真でご覧に入れましょう。竣工後、是非ともこの生協食堂をお訪ねください。この木造建物にはわたしの研究室で開発に携わった木材接合技術も使われています。

この技術はすでに全国各地で種々の木造建物で使用され



<写真 新学生食堂の内部空間(建設中)>

るに至っています。たとえば、2005年に開催された〈愛・地球博〉の日本政府館(長久手日本館)や昨年2014年にオープンした〈大分県立美術館(設計:坂茂氏)〉などにも採用されています。但し、接合に使われている鋼製の棒と接着剤が木材の中に隠れているので、竣工後には接合の様子が外観からは確認できません。これがこの接合の大きなメリットでもあります。このようにわたしも専門的立場から、この建物に対して技術的支援をさせて頂きましたので、定年退職と同時の竣工には感慨もひとしおといったところです。

また、将来に目を向けると本年4月からは大学院工学研究科の改組、さらには来年4月には工学部が理工学部となるなど他学部をも巻き込んだ学部改組など本学工学部の将来に向けた発展の基礎となる組織改革が目白押しです。このような組織改革の目指すところは教育改革です。文部科学省をはじめ、国も技術立国として、日本を経済発展させるとの大方針を出し、理工系人材の養成に力を注ぎ始めているため、本学工学部の組織改革・教育改革を支援しているのだと思います。このような組織改革を通じて、大分大学工学部が大分の地になくってはならない知と教育の拠点として発展し続けることを切に願っています。

卒業生の皆さんとの交流に思う

最近、フェースブックなどのSNSを通じて、卒業生との交流が増えてきました。東京や大阪に出張する予定をこれらに書き込むとSNSを通じて、情報が即座に伝わり、教え子達が各地で集まってくれます。そこではわたしと卒業生との交流もさることながら、卒業生同士の近況報告や仕事の話などに花が咲いています。わたしも生き生きと卒業後の人生を送っている卒業生の皆さんの姿を見てみると36年間、大分大学の教員として過ごすことができたことのありがたみをしみじみ感じずにはいられません。この卒業生同士あるいは教員と卒業生との交流は、双方において重要と考えています。私たち教員にとっては、教育の成果を唯一実感できるタイミングでもあります。この交流はお互いの仕事上の糧にもなりますがそれにも増して、お互いの人生を豊かなものにするにも繋がると信じています。今後も、こんな交流が全国各地で繰り返されることを願ってやみません。また、各学科単位あるいは研究室単位の同窓会に留まらず、工学部全体の同窓会である〈翔工会)を通じての交流が大きな輪となって広がっていくことも願っております。

おわりに

少子高齢化による人口減少の進展や不安定な世界情勢の中、まだまだ先の見通せない政治経済状況が予想される昨今ですが、翔工会のみならず皆様におかれましては健康に留意され、豊かな人生を目指して、ご活躍されますことを祈念申し上げて、筆を置くことと致します。

「大分大学を退職するにあたり」

工学部応用化学科 助教 倉内 芳秋



大分大学工学部在籍の皆さん、卒業生の皆さん、お元気で毎日をお過ごしのことと拝察いたします。この度、長年お世話になりました工学部を定年退職することになりました。旧化学環境工学科の教務員として採用となり着任したのが昭和51年ですから、ちょうど40年間の在籍になります。工学部4番

目の学科として昭和49年に新設された化学環境工学科は、昭和30年から40年代の高度成長期の負の遺産となった公害問題を意識して、当時、名前からしてもユニークな学科として注目を集めました。しかしながら、授業内容は他大学の化学関連学科と同様にもかかわらず、就職の面接等での不利な点も指摘され、設立18年後に学科改組に伴い応用化学科に生まれ変わりました。

研究室始動期は学部生のみ定員40人が4講座に配属され、ほとんどの実験器具は手作りで、ガラス細工も随分上達したことなどを思い出します。NMRも中古の60MHz永久磁石の譲渡品で、いったい何を測定していたのか不思議なくらいです。現在の分析機器の充実ぶりを見ると隔世の感があります。教室会議は和気藹々、自分を含めほとんどが、ヘビースモーカーだったため、煙の中での会議でした。当時からの語りぐさは、立ち上げの予算不足のため、実験台・机・イスなどは、若かりし頃の羽野忠元学長や大賀一也先生など皆さんで図面を描き、宮崎県の刑務所まで

通い製作依頼したと伺っています（何と木製丸イス2脚は現役で残っています）。大学周辺には食堂や店も数えるほどしか無く、生活にはかなり不便でした。ただ、自然環境は素晴らしく、季節になるとシュンランやタケノコ、タラの芽、ワラビなど構内で採取でき、春の恵みを頂きました。野ウサギの糞はあちこちに見られ、自動車部裏の小川ではホタルが舞っていましたが、今では住宅が建ち並び面影もありません。

さて、現在、工学部は理工学部への改組が着々と進み、大きな変身を遂げようとしています。工学部だけではなく、他の学部も大きな改組を控えています。また、この4月には福祉健康科学部が新設され、大学全体が躍動変革の時期を迎えています。卒業生の皆様におかれましては、それぞれの青山でご活躍のことと思いますが、非正規雇用が40%にもなろうとする厳しい社会状況の渦中にある方や、将来設計への不安を抱えた在校生の皆さんも沢山おられると思います。「一億総活躍社会」が取りざたされていますが、幸せの価値観が規格化・強制され、その結果「一億総競争社会」となることを懸念します。グローバル化とは多様性を認め合うことです。身近な隣人と無駄に争わないことです。そのコツは、「アラユルコトヲジブンヲカンジョウニ入レズニ・・・」と書き留めた詩人が居ます。「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」と看破した社会学者も居ます。お互いが協力してこそ、個人も組織も良い形で成長し発展すると信じます。最後になりましたが皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

大分大学同窓会連合会設立報告

同窓会長 松尾 孝美

平成27年4月1日に、ホルトホール大分にて、「大分大学同窓会連合会」の設立総会が開催されました。大分大学の各同窓会（教育福祉科学部同窓会（豊友会）、経済学部同窓会（四極会）、医学部医学科同窓会（玉樹会）、医学部看護学科同窓会（桜樹会）、福祉社会科学部同窓会（九峰会）、工学部同窓会（翔工会））が会員となり、会員間の交流、連携を推進することにより、大分大学の卒業生等の交流、親睦を図り、併せて大分大学の発展に寄与することを目的として、「大分大学同窓会連合会」が設立され、初代同窓会連合会会長に園田和孝豊友会会長、副会長に河野義久玉樹会会長が選出されました。設立総会には、各同窓会長をはじめ同窓会及び大学関係者が出席し、総会終了後、会場を移

動して記念祝賀会が開催されました。

これまでの連合会の事業としては、Webサイトの開設、大分大学同窓会連合会機関誌創刊号の発行、大分大学ホームカミングデー（同窓生との交流会）の開催が実施されました。

同窓会連合会機関誌創刊号には、翔工会の江口正一大分支部長に祝辞のご寄稿をいただきましたことを厚くお礼申しあげます。

同窓会連合会の紹介、事業案内および報告、機関誌創刊号などの詳細は、以下の同窓会連合会ホームページをご覧ください。

<http://www.alumni.oita-u.ac.jp/index.html>

お知らせ

・卒業証明書の問い合わせについて

最近、同窓会に卒業生から卒業証明書の問い合わせが多く見られます。同窓会では証明書等の発行業務は行っておりませんので、卒業証明書等のお問い合わせやお申込みは、右記のところにお願いいたします。

住所：〒870-1192 大分市大字巨野原700番地
大分大学工学部学務係
電話：097-554-7757 または、7758

大分大学と同窓生との交流会「大分大学ホームカミングデー2015」報告

同窓会副会長 戸 高 孝

今年も昨年同様、大学開放イベント・学園祭(蒼稜祭)と同日の11月1日(日)に《～懐かしい恩師・友との再会～「大分大学ホームカミングデー2015」》が開催されました。

交流会は、6つの各学部・研究科等の同窓会が一堂に会し、初めに同窓会連合会役員及び本学役職者を紹介した後、越智義道社会連携・国際担当理事の開会挨拶、園田和孝同窓会連合会会長の挨拶がありました。来年度開設予定の新学部「福祉健康科学部」の説明や29年度の改組を計画している経済学部や工学部の近況報告もされました。また、平成27年4月に6つの同窓会の連合体として「大分大学同窓会連合会」が設立されたことの報告もあり、今後益々交流の場が増えていくことが期待されています。



園田和孝同窓会連合会会長

懇親会は、恩師(名誉教授)紹介後、恩師代表として羽野忠前学長が挨拶を行い、河野義久同窓会連合会副会長の乾杯の音頭で始まり、恩師・同窓生・豊梅会会員(職員OB)が世代や出身学部等を越えた交流を行い、和やかなひと時を過ごしました。

これまで福岡や東京などで開催されてきた「地域別の大分大学と同窓生との交流会」も今年度別途開催される予定でしたが、調整が遅れたため中止となっております。11月の連休最終日に開催されるホームカミングデーはなかなか出席が難しいと思いますが、地域別交流会開催の折にはご案内させていただきますので、是非ご参加いただければ幸いです。

以下に交流会と懇親会の写真を示します。



羽野忠前学長

同窓会活動状況

平成27年度の活動状況および現在の理事、評議員の名簿を以下に掲載いたします。

■ 活動状況

§平成27年4月1日(水)「大分大学同窓会連合会」の設立総会(ホルトホール大分にて)

議題

- (1) 大分大学同窓会連合会役員等について
- (2) 平成27年度事業計画について
- (3) 大分大学同窓会連合会経費に係る会員の分担金の割合等について
- (4) 平成27年度収支予算について

§平成27年5月28日(木) 第1回理事会(大分大学にて)

議題

- (1) 役員交代について
- (2) 平成26年度収支決算書(案)について
- (3) 平成27年度予算書(案)について
- (4) 監査について
- (5) 平成26年度評議員会よりの検討事項について

- (6) アルバイト謝金の改定について
- (7) 会計口座の開設について
- (8) 同窓会連合会について
- (9) その他

§平成27年8月3日(月) 第2回理事会(大分大学にて)

議題

- (1) 役員について
- (2) 平成26年度評議員会について
- (3) 平成25年度監査状況について
- (4) 顧問の人数と任期について
- (5) 平成26年度評議員会よりの検討事項について
- (6) その他

§平成27年9月5日(土) 評議員会(ホルトホール大分にて)

- (1) 平成26年度事業報告
- (2) 平成26年度決算報告
- (3) 平成27年度事業計画(案)
- (4) 平成27年度予算書(案)
- (5) 今後の同窓会の運営について

(6) その他

評議員会終了後懇親会



評議員会集合写真



懇親会写真

§平成27年11月1日(日)

大分大学と同窓生との交流会「大分大学ホームカミングデー2015」(大分大学にて)

§平成27年12月2日(水) 第3回理事会(大分大学にて)
議題

- (1) 平成27年度評議員会報告と検討事項のまとめ
- (2) 機関誌「翔工第26号」の編集について
- (3) 大分大学と同窓生との交流会報告
- (4) その他

§平成28年1月27日(水) 第4回理事会(大分大学にて)
議題

- (1) 機関誌「翔工第26号」の編集について
- (2) 卒業祝賀会および卒業記念品、退職記念品について
- (3) 平成27年度評議員会よりの検討事項について
- (4) 役員交代について
- (5) 卒業生の住所調査について
- (6) 同窓会連合会について
- (7) その他

§平成28年3月中旬 第5回理事会(大分大学にて)

§平成28年3月17日(水) 機関誌「翔工第26号」発行予定

§平成28年3月22日(火) 卒業祝賀会開催予定

■ 支援助成事業等

§学科・留学生補助：留学生友の会(年会費)、各部会の学科行事補助(講演会補助など)

■ 理事名簿

会長	松尾 孝美	(エネ昭55卒)
副会長	戸高 孝	(電気昭58卒)
会計	楠 敦志	(電子平2卒)
	下地 広泰	(博士課程平15修了)
顧問	新見 昌也	(機械昭59卒・61院修了)
	斎藤 国壽	(機械昭53卒)
	森 勝浩	(機械昭63卒)
	藤澤 徹	(電子平5卒・7年院修了)
	雲井 将文	(電気平2卒・4院修了)
理事	松岡 寛憲	(機械昭51卒・機械部会長)
"	佐藤 裕太	(修士課程在学・機械副部会長)
"	小野田 豊	(修士課程在学・機械代表理事)
"	原 正佳	(電気平3卒・5院修了、電気部会長)
"	槌田 雄二	(電気平4卒・6院修了、電気副部会長)
"	下地 広泰	(博士課程平15修了、電気代表理事)
"	西島 恵介	(組織平1卒・3院修了、組織部会長)
"	賀川 経夫	(組織平3卒・5院修了、組織副部会長)
"	足立 徳子	(組織平5卒、組織代表理事)
"	牛ノ濱三久	(応化平7卒・9院修了、化環部会長)
"	田崎 厳	(修士課程在学、化環副部会長)
"	倉田 玲亜	(修士課程在学、化環代表理事)
"	斎藤 晋一	(エネ平2卒・4院修了、エネ部会長)
"	矢田 健二	(エネ平21卒・23院修了、エネ副部会長)
"	内尾 駿也	(修士課程在学、エネ代表理事)
"	小林 祐司	(建設平8卒・10院修了、建設部会長)
"	田中 圭	(建設平10卒・12院修了、建設副部会長)
"	富来 礼次	(博士課程平15修了、建設代表理事)
"	楠 敦志	(電子平2年卒、電子部会長)
"	井上 昂大	(修士課程在学、電子副部会長)
"	河野 将司	(修士課程在学、電子代表理事)
"	的場ちさと	(修士課程在学、福祉部会長)
"	大坪 明夏	(修士課程在学、福祉副部会長)
"	室 昂佑	(修士課程在学、福祉代表理事)

■ 評議員名簿

大分支部	支部長	江口 正一	(エネ昭54卒・56院修了)
	副支部長	吉野 清己	(機械昭52卒)
	副支部長	塚本 賢治	(知能平19卒・21院修了)
福岡支部	支部長	小田 誠雄	(組織昭59卒・61院修了)
	副支部長	上田 和徳	(建設平3院修了)
	副支部長	深田 啓輔	(化環平5卒・7院修了)
熊本支部	支部長	荻木 禎史	(電気平3卒・5院修了)
	副支部長	岩永 憲二	(機械昭51卒)
	副支部長	黒木 正幸	(建設平1卒・3院修了)
大阪支部	支部長	平岡 学	(機械昭63卒・平2院修了)
	副支部長	黒木 亮爾	(電子平15卒・17院修了)
	副支部長	橋本 芳典	(電気平12卒・14院修了)
東京支部	支部長	柏原 康彦	(機械昭56卒)
	副支部長	後藤 正徳	(エネ昭57卒)
	副支部長	豊田 耕一	(電気昭58卒)

お 知 ら せ

・ 退職者の紹介

福祉環境工学科建築コースの井上正文教授、応用化学科の倉内芳秋助教、電気電子工学科電気コースの池田直美教務職員、機械・エネルギーシステム工学科エネルギーコースの木庭博美技術専門職員が平成28年3月をもって退職されます。

・ 学位取得者の紹介

平成26年度博士学位を取得された方々を紹介いたします。(学位記番号順・敬称略)

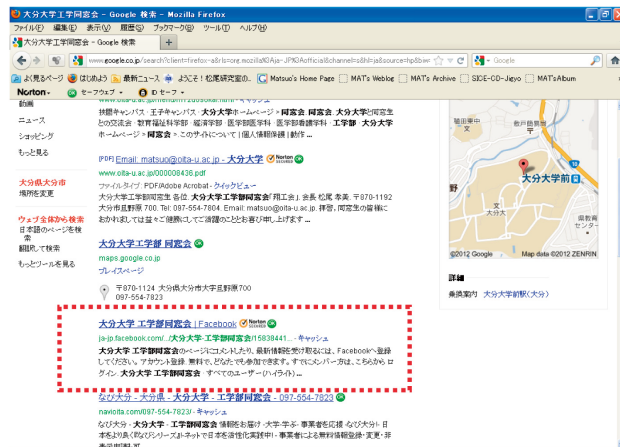
和田 拓 也、嶋 田 源 一 郎、
Mohd Sofian Bin Mohamad Rosbi、
丸 木 勇 治、岡 田 秀 敏

大分大学工学部同窓会
Facebook開設のお知らせ

同窓会長 松尾 孝 美

翔工会のFacebookを、東京支部副支部長の豊田耕一さんに開設していただきました。これから、内容を増やしていきたいと思いますので、どうぞ、ご利用をよろしく願います。

Googleで、「大分大学工学部同窓会」で検索すると、以下のように、Facebookページを見つけることができます。



研究室だより

機械・エネルギーシステム工学専攻
材料力学研究室 M1 藤村 哲也

私の所属する材料力学研究室では後藤真宏教授、山本隆栄助教、北村純一技術職員のご指導の下、博士前期課程5名、学部生7名で日々研究活動を行っています。主な研究内容を以下に3つ紹介します。

・超微細粒銅の疲労挙動

銅は優れた加工性や導電性を持っており、電気電子部品の材料として広く使用されています。近年では、電気電子部品の小型軽量化、高集積化等の要求があり、銅材料の更なる高強度化が求められています。しかし、他元素を添加する合金化はその添加量が微量であっても導電性を著しく低下させてしまいます。そこで、形状と大きさを維持した状態で組織を微細化し、強度を向上させることができるECAP(equal channel angular pressing)という方法が開発されています。本研究ではECAP加工の諸因子が加工後の組織状態および、疲労特性に与える影響を材料表面の疲労損傷やき裂の進展挙動などに注目して検討し、考察を行っています。

・Cu-Ni-Si合金の疲労強度特性

近年、コネクタ、リードフレーム、リレーなどの電気電子部品は高強度であると共に優れた導電性を有する必要があるため銅合金が広く使用されています。Cu-Be系合金は銅合金中で最高の強度と高い伝導率も併せ持つため、耐疲労特性が要求される自動車用リレーの可動片として使用されることが多いです。しかし、Cu-Be合金は高価であると共にリサイクルの際にBeが環境に悪影響を及ぼすことから代替合金の開発が望まれています。そこで、Cu-Ni-Si合金はNi₂Siの分散による析出硬化型合金であり、Be銅には及ばないものの、安価で強度と伝導率の組み合わせ特性が良好な銅合金であるため疲労強度特性に着目して研究をしています。

・金属材料に及ぼす水素の影響

近年、水素が次世代エネルギーとして関心を集めています。しかし、水素は金属材料中に侵入して材料の強度を低下させる、いわゆる“水素脆化”を引き起こすことが問題となっています。水素利用機械として燃料電池自動車や家庭用の燃料電池システム、水素ステーションなどが挙げられますが、それらの構成要素である高压水素タンクや配管などは水素に直に被爆してしまいます。機械や設備の長期的安全を確保するため、水素が材料内部に侵入した状態を仮定した上での影響を調べる必要があります。水素脆化の原理はこれまでの研究により解明されつつありますが、未だ明らかになっていないことも多いです。本研究では水素が金属材料に及ぼす影響を調べるとともに、水素脆化メカニズムを解明することを目的としています。

他にも様々な研究を進めています。興味をもたれた方は論文等を閲覧してみてください。

電気電子工学科 電気コース

放電プラズマ研究室 B4

喜多村圭一 小野 剣 前田章秀
川上 凌 甲斐雅崇

放電プラズマ研究室は金澤誠司教授、市来龍大助教、赤峰修一技術職員のご指導の下、博士前期課程12名、学部生11名でプラズマや高電圧を用いた研究を行っています。以下にいくつかの研究を紹介します。

・マイクロバブルと気液界面放電の重畳手法の開発

近年、水処理技術の進歩とともに私たちがおいしい水を当たり前で飲むことができている。私たちの暮らしが豊かになる一方、水処理後の工業排水や生活排水の中に存在している難分解性有機物（トリハロメタンやダイオキシン類など）による水資源の汚染問題があります。そこで私たちはOHラジカルという高酸化力をもつ化学的活性種に注目し、マイクロバブルの圧壊現象によるOHラジカルの発生と気液界面放電を組み合わせて効率よくOHラジカルを発生させる水処理手法を開発するための基礎研究をしています。

・大気圧プラズマ窒化処理

窒化とは鋼に窒素を拡散浸透させて表面に硬質の窒化物を形成させたり、鋼中に窒素を過飽和に固溶させたりして硬化させる表面硬化処理法です。この窒化処理は自動車部品、建設機械、金型など広範囲に適用されています。我々の研究室では大気圧プラズマを用いた窒化処理について研究しています。大気圧プラズマを用いることによって真空装置などの大型で高価な装置を必要としない簡易で安価な処理技術の開発を目的としています。

・植物に対するラジカル照射反応の追跡

我々は植物の種に大気圧プラズマ処理を行うことによって、植物の生長を促進させることに成功しています。これにより従来よりも早く植物を生長させ将来の食糧不足問題に貢献できるのではないかと考えています。また最近では、植物の葉にプラズマ処理を行うことによって逆に生長の抑制が可能であることが分かってきました。この技術は将来、人手不足や農業などによる環境汚染への対策にもなると考えています。

・3Dプリンタによるイオン風発生装置の作製

イオン風とは、電界によって駆動される気流のことで、放電電極側に高電圧を印加すると、コロナ放電が発生し、周囲の空気分子がイオン化され集塵電極に向かって電気力線に沿ってクローン力で引き寄せられることによって発生する風のことで、イオン風発生装置はほかの流体制御装置と比べ、低電力で動作可能であることや、可動部を必要としないので小型かつ軽量であることなど様々な利点があります。このイオン風発生装置を3Dプリンタを用いて作製しており、3Dプリンタを用いることで、複雑形状のリアクタが安価で気軽に作製できます。

研究室OBの皆様、是非遊びにいらして下さい。最後に、今年度立ち上げた研究室のウェブページをご紹介します。
<http://elecls.cc.oita-u.ac.jp/plasma/>



応用化学科 永岡研究室 M1 加藤 宙子

2015年度現在では、永岡勝俊准教授、佐藤勝俊客員研究員（京都大学特定助教）、和田雄一郎技術職員、他スタッフ5名、修士2年5名、1年5名、学部4年5名で構成されており、研究室では固体触媒を用いた様々な反応を行っています。

無機系の反応では、水素キャリアの研究として、アンモニアの合成と分解に最適な触媒の開発、自動車排ガスの浄化に用いられる三元触媒の開発や CH_4 を低温で分解する触媒の開発などを行っています。有機系の反応では、還元反応、酸化反応、カップリング反応を行っています。一般的に固体触媒は、錯体や均一系触媒と比較して低活性を示すことが多いです。そのため、高活性を示す条件を日々検討しています。この固体触媒のメリットとして、液体中からの回収が容易で、リサイクルできることが挙げられます。最近、始めた研究として、半導体光触媒を用いた有機合成反応もを行っています。この反応は、半導体に必要な波長の光を照射し、価電子帯に正孔、伝導帯に電子を生じさせ、酸化反応と還元反応を同時に起こすものです。光さえあれば、常温・常圧で行うことができる反応です。

研究以外でも、4年生の歓迎会や研究室対抗バレー大会、ピアガーデン、ゼミキャンプ、忘年会など様々なイベントを西口研究室のメンバーとともにを行っています。研究する時は研究、遊ぶ時は遊ぶとメリハリのある生活を送っています。

福祉環境工学科建築コース 建築環境設計講座 大鶴・富来研究室 准教授 富来 礼次

同窓生の皆様お元気で過ごしでしょうか。大分大学に赴任して早9年、気がつけば40代に突入し、「スマホ」時代の学生さんとはごまかしきれない年齢の差を感じます。幸い毎年ほぼ無事に多くの卒業・修了生を世に送り出すことができ、研究室が、大学が、卒業生の皆様と学生との交流の場となるよう努力する必要性をひしひしと感じております。本年度は、建築コースが日本技術者教育機構（JABEE）の再受審を迎えたことで、卒業生の皆様にもいろいろご協力を頂きました。この場をかりて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、「大鶴研究室」と書けばご存知の皆様も多いと思

いますが、当研究室は建築環境学のうち特に音に関わる研究を行っています。スタッフは現在、大鶴徹教授、私、田嶋技術職員、客員研究員1名、博士前期課程9名、卒論生約10名、早期配属の3年生約10名と、以前に比べると少し平均年齢が下がっていますが、相変わらずの大所帯で日夜研究に励んでいます。

研究内容としては、まず室内音場のシミュレーションに関する研究として、手法の開発・大規模化・高速化・高精度化・適用範囲の拡大等を行っています。現在、8500 m^3 規模の室内の2kHz程度の音まで、波動性を考慮してシミュレーション可能となっています。また、ニューラルネットワークを利用して、より簡易に室内音場の評価指標等を予測する研究も実施しています。

これらシミュレーションに利用する境界条件を得るために始めた、材の音響特性測定に関する研究も、現在では卒論・修論の半分程度をしめています。そのメインは、方向を特定できない「ランダムな」音源を利用して材の音響特性を測定する手法の開発で、逆に上記シミュレーションを利用した測定メカニズムの解明や、安定した測定手法の検討、他の手法では測定が難しかった場所や対象の測定を実施しています。近年では、ヨーロッパで開発された、音の粒子速度を測定できるセンサーも複数本所有し、センサー間の比較やより安定性の高い測定も行えるようになってきました。

さらに、分野横断および国際共同研究として、代表的な木材害虫であるシロアリの摂食活性を振動・音響信号により制御することに挑戦しています。まだまだ試行的な研究の域は出ませんが、同じ建築コースの木構造研究室（井上教授・田中助教）や京都大学生存圏研究所の吉村准教授、オーストラリア・ニューサウスウェールズ大のLai教授らとともに試行錯誤を繰り返しています。今後は、無人航空機（ドローン）を使用した音響測定やスマホアプリの開発にも取り組んでいけたら、と考えています。

昨年度末は、大鶴教授の還暦の御祝のために、数年ぶりに本格的に卒業・修了生が集まりました。現役学生にとっては、先輩方と直接お話できる大変良い機会が得られ、ご協力頂いた皆様には大変感謝致しております。建築環境の研究室に所属されていた卒業生の皆様にはおなじみの、「九州環境工学シンポジウム」にも相変わらず参加し、恒例の模型飛行機大会では大鶴教授はじめ大学院生も入賞するようになってきました。卒業・修了生の皆様、機会がありましたらぜひ、研究室にお立ち寄り頂くとともに、学会やシンポジウム場で大分大学の学生にお声をおかけ頂ければ幸いです。

最後になりましたが、卒業・修了生の皆様の今後益々のご活躍を祈念しております。

訃報

次の方の訃報に接しました。
 謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

機械・エネルギー工学科
 機械コース
 元技術職員

姫野 幸三様
 (平成27年7月26日)

電気電子工学科
 電気コース
 元技術職員

佐藤 茂信様
 (平成28年1月14日)

翔工会 および 工学部ホームページのお知らせ

・ ホームページのURL

<http://shokou.csis.oita-u.ac.jp>

機関誌PDFをダウンロードできます。
また、住所変更もできます。

・ ホームページに関する質問や要望

同窓会活動に関する質問、要望等ございましたら、
shokou-request@oita-u.ac.jp
までご連絡ください。



工学部ホームページのお知らせ

・ ホームページのURL

<http://www2.cc.oita-u.ac.jp/eng/index.html>

各学科のホームページも紹介しております。
今現在の工学部・各学科の様子をぜひご覧ください。



編集後記

機関誌発行委員長 福祉環境工学科メカトロニクスコース 松尾孝美

機関誌「翔工」第26号の発行に際しまして、ご多忙中にもかかわらず、快くご執筆をお引き受け下さいました先生方、卒業生ならびに在校生の皆様には厚くお礼申し上げます。また、各部会編集委員、同窓会事務の方々に感謝いたします。

これからも会員相互の情報機関誌として本誌をご利用いただき、卒業生と同窓会並びに研究室とのつながりを持っていきたいと思っておりますので、近況報告などの寄稿や様々な情報をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。